

裸男思いを込め走る



1 「清め水」を浴びて走る裸男
2 かわいらしい加勢人
3 火防祈願のため奉納する大注連縄
4 祭りに彩りを添えた鹿踊り
5 走り終え充実感の男たち
6 終了後、輪になって水を浴びる「納め水」

一関市・大東大原水かけ祭りは2月11日、大東町の大原商店街で行われました。火防や厄よけなどの願いを懸けて、県内外から参加した270人の裸男たちが「清め水」を浴びながら通りを疾走。352年の歴史を誇る「天下の奇祭」、詰めかけた約2万9千人の観客は迫力に魅了されていました。

観客は、冷水を全身に浴び雄たけびを上げながら駆け抜ける裸男たちに「がんばれ」などと盛んに応援していました。裸男の後には、厄年の女性などの代役として走る「加勢人」と呼ばれる子供たちが、まんじゅうがさと独特の装束をまとって続き、祭りを盛り上げていました。

水かけは午後3時にスタート。合図と共に裸男が通りを駆け出すと、おけを手にした地元の人たちなどから一斉に「清め水」が

主催した同祭り保存会の鈴木功会長は「男たちは、思いがあつて走った。新たなスタートがきれ満足度は最高だと思う」と祭り終えて語りました。

いわて
南牛

日本一目指し東京でPR

両磐地域で生産されたいわて南牛を消費者に知ってもらいたいといわて南牛フェアが2月7、8の両日、東京都中央区のいわて銀河プラザで行われました。主催した「いわて南牛P r o 5」のメンバーや市、農業関係者ら約30人が高品質のいわて南牛の試食販売を行い、安全安心で味わい深いいわて南牛をアピールしました。

良代表はいわて南、いわい東の両JA管内の和牛生産にかかわる若者で昨年8月に組織「V p ロフェッションナル（高い専門性と情熱）V p ロモーション（若者らしい情報発信）V p プロデュース（安心安全と高品質の牛づくりにV p プログレス（時代を読み、一歩先行く姿勢）V p ロミス（消費者との約束）」の五つにこだわり、いわて南牛の知名度向上に努めています。いわて南牛

リーフレットや都内での取り扱い店マップを作成し、今回のフェアに臨みました。当日は試食でいわて南牛のおいしさをPRし、焼き、しゃぶしゃぶ用の牛肉を販売したほか、ひとめぼれ、曲がりネギ、シイタケなどの農産物も販売。もちつきの実演と試食を行ったほか、7日には勝部市長が駆けつけ、地元の特産品のおいしさをセールスしていました。



試食販売で好評を博したいわて南牛フェア

100歳おめでとうございます
2月10日 佐藤キミコさん花魁

ソエル花泉で誕生日を迎えたキミコさん。家族や他の入所者からの祝福に、笑顔を見せてくれました。



上 大町通りに3月まで出店している「いちのせき元気プラザ」
右 商店街活性化の方策を探るための講演会に多数が参加

商店街
活性化

大町にモデル店舗を開設

東北学院大は市、大町商店街関係者、ベガルタ仙台などと連携し、地産地消型商店街形成を目指し取り組んでいます。全国商店街支援センターの助成を得て行っているもの。大町通りの空き店舗に1月から3月までの期間限定で開設している「いちのせき元気プラザ」で特産品の直売を行い、この施設を拠点に地元商店街と農業、工業との連携を強めながら、にぎわいの

ある商店街の形成を目指します。店舗は面積83・5平方メートル。品揃えは野菜、菜種油など農産物や農産加工品、手工芸品、レターセットなど。営業は木曜、金曜以外の午前10時から午後5時です。推進組織として、同大関係者、商店街関係者、市、市民活動団体などにより「おおまち元気力会議」を設立。同会議主催による講演会を開催したほか、3月にはイベントも計画しています。

2月10、11日には、金沢市の㈱アスリック代表取締役の濱博一さんと高山市の(有)地域自然研究所長の近藤紀巳さんが一関文化センターで講演。商店街関係者などのべ100人が聴講しました。

「お店の経営・地域の資源」と題し講演した濱さんは、不況の中売れている商品の共通点について、物語のある商品づくりをしていることを挙げ、「物を作る農業、工業に対し、商業がつくるのはご縁と信頼。当たり前のことをきちんとする感謝の経営が成功につながる」と語りました。